

せんだい普及センターだより VOL.71  
(令和元年5月31日発行)

# BLOSSOM

BLOSSOMとは農家の皆さんと普及センターが協同し  
美しい花を咲かせるよう、また実りあるものとなるよう願  
いを込めて名付けました。

## 宮城県仙台農業改良普及センター

(宮城県仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320 (地域農業班)

022-275-8410 (先進技術第一班)

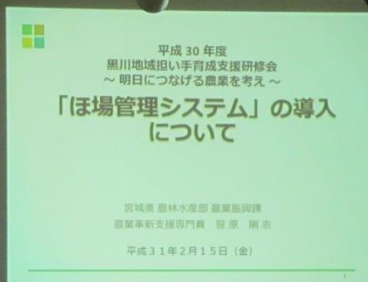
022-275-8374 (先進技術第二班)

FAX 022-275-0296 (部共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

### 黒川地域担い手育成支援研修会



普及センターは新技術の導入を支援します！

## 新しい時代に新たな農業を！

新しい時代が始まりましたが、窓の外の景色はこれまでと何も変わっていないように見えます。しかし、時間が経つにつれて「新しい風」が吹き込んでくるだろうし、また、新時代に向けた「変化の風」を自ら起こしていく必要もありそうです。担い手不足や労働力不足は、農業だけの問題ではなく、もはや社会全体として克服すべき課題となっています。生産年齢人口が大きく減少していく中で、これまで重視してきた土地生産性を維持しつつも、一人あたりの生産性(労働生産性)を向上させるための技術革新が必要です。国や県では、情報通信技術(ICT)を活用した生産管理やドローン、自動運転など新たな技術による「スマート農業」を推進しています。普及センターとしても、限られた労働力で効率的に生産する技術の導入を支援していきます。

また、法人組織や雇用労働による生産活動が今後も増えてくると考えられ、構成員や従業員間での役割分担や目標の共有、リスク管理といった「より良い農業」の実現に向けた組織的な取組が重要です。

この取り組みが「GAP」です。農業の現場で働くみんなで食の安全・安心、事故防止、品質の向上及び農業の職場環境の改善を図る取組です。普及センターでは、これからの時代の農業の「働き方」を確立していくためにも、GAPの取組を継続的に推進します。

震災から8年が経過しました。県の震災復興計画の総仕上げとなる発展期の2年目となります。引き続き被災地での復興支援を継続する一方で、内陸部や中山間地域の活性化にも目を向けた取組も必要です。普及センターでは、沿岸部から中山間地域までの広い地域の中で、「新しい時代」の「新たな農業」の推進・支援に取り組んで参りますので、ご理解とご協力をお願いします。

宮城県仙台農業改良普及センター所長 門脇正好

せんだい普及センターだよりは、管内市町村の認定農業者等に配付させていただいています。

# 令和元年度プロジェクト活動内容 ～今こそ拓こう！多様な仙台近郊農業～

## 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

大郷町山崎地区の「みどりあーと山崎株式会社」は、平成28年に地区内の農地の受け皿として任意組織を法人化しました。同社では農地中間管理事業等の活用による農地集積が急速に進み、平成30年度の経営規模は、水稻50ha、大豆34haの計84haとなっています。

このため、水稻の春作業の省力化と秋作業の分散を目的に、平成29年度から試験的にべんモリコーティング直播栽培を導入しております。普及センターでは、目標収量を確保できるよう技術課題の解決に向けた取組や、大豆については、土壌診断に基づく施肥設計や自ら実施する生育調査及び単収の向上を支援しています。

さらに、昨年度に作成した経営計画の達成度を検討し、改善を行うことで、将来の円滑な経営継承に向けた取組を支援していきます。



【本年度の支援計画の打合せ】

## 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築

仙台市西部の倉内・大針地区は仙台市の中心部に隣接するものの、農業の担い手不足及び耕作放棄地の増加並びに鳥獣被害の増加など、持続的な地域農業の維持に当たり課題が山積しています。

倉内・大針地区では、これらの課題に対応するため、平成29年7月に「倉内・大針農村地域活性化委員会」(会員20名)を設立し、基盤整備事業導入及び体験交流等による地域活性化を進めています。さらに平成30年11月に委員会の中に「農地マネージメント部会」「農村環境部会」「地域営農部会」を設け、地域活性化に向けた取組体制を強化しています。また、当地区では、令和4年度から始まる基盤整備工事前に持続的に集落営農を担う組織と導入作物を決定し、工事終了後スムーズに営農を開始したいと考えています。

普及センターでは、倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会を対象に、基盤整備後に導入される園芸作物の品目の決定に対する支援に加え、地域を支える集落営農法人の設立を支援していきます。



【平成30年8月に実施した収穫体験】

## GAPを活用した現場力の向上

GAPに取り組むことにより、生産管理や効率性の向上、経営意識の向上につながる効果があり、管内においても、GAP認証を取得する法人が増えてきています。

法人がGAPをベースに経営改善に取り組む際には、従業員が計画・点検・改善に積極的に参画し、農場の方針や問題点を共有化することが重要です。

普及センターでは、平成30年1月にASIAGAPを取得した株式会社未来彩園において、従業員自らが問題を発見し、協力して問題の解決を目指すワークショップ活動等をサポートし、GAP導入を契機とした経営改善の取組を支援していきます。



【トマトでのGAP認証ほ場】



## 環境制御システムによる栽培管理技術の向上

株式会社イグナルファーム大郷は、平成30年度に新たに建設した1haの軒高ハウスでミニトマトを栽培しています。ハウスには統合環境制御システム導入により光、温度、湿度、空気の流れや養水分などを統合的に制御して植物の光合成速度を最大限に高め、高収量、安定生産の実現を目指しています。

そのため普及センターでは、生育データを収集し環境因子データとの分析を支援しています。また栽培技術に加えて、作業適期や労働配分といった農場マネジメントの高度化知識の習得も支援していきます。



【環境制御システムで管理されたハウス】

## 6次産業部門の改善による経営力の向上

農事組合法人仙台イーストカントリーは、平成20年1月に設立し、生産部門と6次産業部門（農産加工施設、おにぎり茶屋）による経営を展開している法人です。

生産部門では、土地利用型作物等（水稻、大豆、飼料米、稲わら）を生産しており、水稻においては直播栽培や多品種栽培等に取り組んでいます。また、6次産業部門では、東日本大震災後の地域の雇用創出と生産部門の高付加価値化に取り組んでいます。農産加工施設では、おにぎりや味噌、惣菜等を製造し、地元スーパーや農産物直売所で販売をしています。また、おにぎり茶屋では、看板メニューのおにぎりをはじめ、米粉カレーや豚汁等を提供しています。

普及センターでは、6次産業部門の安定化を図り、持続的な経営が行えるように、既存商品の整理（売上高、販売量、利益率）、商品原価の点検、経営管理のスキルアップを支援し、経営力の向上を目標に活動していきます。



【6次産業部門のおにぎり茶屋】

## 「だて正夢」「金のいぶき」地域栽培塾を開催します！

県では、平成30年産米で本格デビューした「だて正夢」、健康ニーズに対応した玄米食向け品種「金のいぶき」を戦略的に導入し、主力品種である「ひとめぼれ」、「ササニシキ」とともに、首都圏を中心に「みやぎ米」の認知度向上と販売拡大を重点的に推進することとしています。

特に、「だて正夢」及び「金のいぶき」については、需要に応えられる生産量の確保と高品質・収量安定化に向けて、生産者と関係機関が一体となって取り組んでいくことが求められています。

このため、当普及センターでは、今年度、生産者の栽培管理技術の早期定着を目的に、地域栽培塾を開催する計画です。詳細は決まり次第、開催チラシ等でご案内しますので、ぜひご参加ください。



だて正夢



いの  
ぶき  
玄米  
みやぎ  
県産

だて正夢及び金のいぶき「地域栽培塾」開催計画 ※開催場所は未定

- 1回目（7月上旬） 葉色診断に基づく肥培管理
- 2回目（8月下旬） 適期刈り取り
- 3回目（2月） 2020年版マニュアルに基づく栽培管理